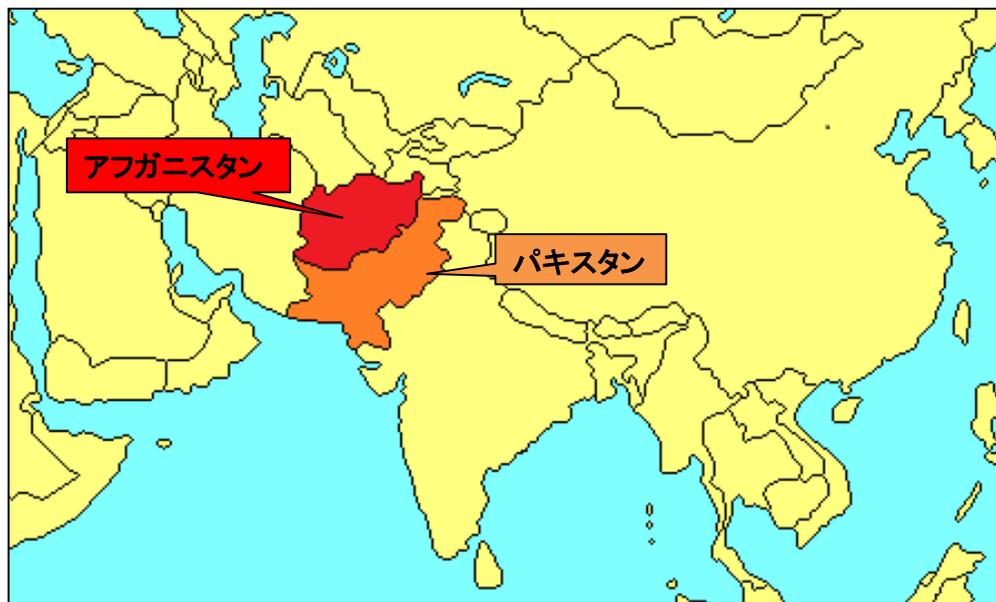


アフガニスタンからパキスタンへ クリミア・コンゴ出血熱の輸入例

2011年9月17日 ProMED 情報(Pakistan today)



アフガニスタン国境近くのケッタ Quetta(パキスタン)で、院内感染を含む4名のクリミア・コンゴ出血熱患者が確認されました。アフガニスタンから、手術を受けるためにケッタの病院に移送された感染患者の手術を担当した外科医師1名と技師1名、ほかにアフガン難民1名とケッタ近郊のKuchlakの若者1名です。これらの他に、以上の患者を治療中に、医療関係者などが感染した可能性があるとのこと。

〔ProMED 調整者〕 パキスタンでの院内感染は、2010年にも報告されています。クリミア・コンゴ出血熱は、地中海全域、中国北西部、中央アジア、アフリカ、中東、インド亜大陸で発生が確認されています。

マダニ、特にイボマダニ属 *Hyalomma* はクリミア・コンゴウイルスを媒介するベクターです。ウシ、ヤギ、ヒツジ、ウサギなどが宿主となり、感染した動物の血液、ダニとの接触、患者の血液や体液を介してヒトへ感染します。眼の充血、顔面紅潮、咽頭発赤、口蓋の点状出血がみられます。入院患者の死亡率は9～50%です。治療は、抗ウイルス薬 リバビリンに効果があると言われています。

ワクチンは安全性と効果に問題があり、現在は使用されていません。